

編集室から

今年、桜の開花時期に合わせたかのように夜間気温が低い日が続きました。このため、例年より桜が随分と長持ちして目を楽しませてくれました。

そして、桜の花が散るのに呼応するかのごとく、今度は木々が芽吹き、山の緑も「新緑」と一言で済ませるのはもったいないくらい、さまざまな緑色に包まれてきました。この時期になると、いつも緑色とはこんなにも多様であったか、と感嘆させられています。

一方で、年度代わりや日中の暖かさに気が緩んだのか、風邪気味となり、ちょっと冴えない先月でした。我が家の田仕事も本格的になりますので、いつまでも体調不良という訳にも行かず、そろそろ気合を入れております。

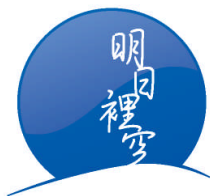
木の芽どき、みなさまはいかがでしょう。

さて、毎号レギュラーの溝口さんは、先月静岡県庁を辞され、同県小山町に移籍されました。先月号までのJR九州なつ星乗車記は一旦置いて、赴任のご挨拶号となっています。

新任地の小山町は、富士山山頂から東、御殿場の北に位置する東西に長い町です。かつて東海道足柄路の駿河の玄関口として、また相模・甲州を結ぶ宿場町としても栄え、金太郎さんで親しまれる坂田の金時の故郷でもあります。富士スピードウェイがあり、F1グランプリなどが開催されているユニークな町で、私も一度訪れてみたいと思っていた地域でした。

ご当地の宿舎で早速、昼食会や蕎麦会を開催して各地から仲間を招かれるなど、人間力の大きな方は何処へ行っても動きが速いものです。

こちらも負けじと、幾つか新しい事にチャレンジを始めました。形が見えてきましたら少しずつ本欄でもご紹介差し上げようと思っておりますので、暖かなお心でお楽しみにお待ち頂けると幸いです。(は)



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登の夜市」の姉妹店を開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

もちろん、川島さんご自身もお店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00~24:00

金曜17:00~28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2014/05

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2014/05

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

泉 月



能登國七尾にて
青柏祭でか山の木遣節
by hama

濱のつばやき 『損得勘定』

最近、驚くような発見・研究に触れることが多い。これも時代が急変革しているためだろうか。今回ご紹介するのはその中でも飛び切り驚き、また得心した研究である。その主は京都大学大学院工学研究科の藤井教授だ。

曰く「運がない人は、なぜ運がないのか」
運の良し悪しは、それこそ「運」であって科学的に解明される類のものとは全く考えてもいなかった。それが心理学的に解説可能だという。

原典は二〇一一年八月十五日号の月刊プレジデント・ネット版としても昨年三月に公開されている。同ネット版から結論的な図を引用させて頂くと、自分から人間（じんかん）距離・心理的距離が遠くなる軸を水平に、今から将来へ向けた時間軸を垂直にとる（図一）。この図で、原点（＝今の自分）からどれだけ遠方まで潜在的に配慮できているか、その距離が長い人、すなわち「配慮範囲が広い人ほど運が良い」となるという。

時折信じられないほど自己中心的な犯罪が報道されるが、犯罪者とは「今の自分」のこじりか配慮範囲がないため、反社会的な行動が取れてしまう。もう少し周りの人のことや、やってしまった後の将来に想いを馳せられれば、そんな行動は自重できたであろうに、運が悪い。逆に、自分から遠く、利己的も何も重ならない赤の他人にまで配慮ができ、同時に子や孫の遠い将来にまで想いを致すことが、無意識にできている人。

こんな人が最も運がよい人となる。
昔から、情けは人の為ならずという。今は真逆な意味に勘違いされているが、本来の意味は「人に情けを掛けるのは、その人のためだけではないよ」という教えだ。つまり情けや恩の循環があり、やがてそれは自分に還ってくるのだ。

人が増え、中にはほとんどもない利己的・姑息な輩も徘徊している現代では、にわかには信じがたくなり、それがこの格言の解釈が「情けなんかかけてやると、その人のためにならないからやめておけ」と真逆にゆがめられてしまったのかもしれない。ところが、この真意が科学的に証明されるという学説。なんとも痛快だ。

委細は、欄外に注記したアドレスでは是非検証していただきたい。ここでは僭越ながらこの記事を極要約させて頂きご紹介する。

この学説の基盤となっている法則の一つに人類の社会性の進化がある。人々は長い歴史の中で無意識的に姑息な人とそうでない人を「嗅ぎ分け」本能的に前者を避ける能力を身につけているらしい。つまり我々には「悪者を見破る能力」が高度に備わっているため、表面的にごまかしても利己主義者であることは必ず見破られる。心理学では「裏切り者検知モジュール」という仕組みが働くという。

田舎暮らしでは、農作物などを中心として物々交換が頻繁に行われている。貰ったものよりも少ないものを返していくとやがてその輪から外される。物々交換には消費税が掛からないというメリットがあるが、それ以上に人の利己性を培り出す機能が隠されているのかもしれない。都会人がいきなり田舎暮らしを始めても、結局居辛くなるのは、配慮範囲が狭いまま変えられなかったためかも知れない。

米国の西部開拓史は比較的記録が残されているコミュニティの盛衰史である。中でも利己的な輩が権力を掴んだ町は、程なく衰退しゴーストタウン化しているという。人が良い人間ほど、甘い汁を吸われるそんな町に嫌気が差して早々に移住するため、次第に利己主義的な人間しか残らなくなって最後には吸える汁も無くなるためらしい。

近年、成果主義が行き過ぎた企業で、業績が落ちていいる。損得勘定一本やりで突き進むと、短期的には成果を挙げられるが、一旦環境が変化すると持ち前の狭小な合理主義が役に立たなくなり、一気に不効率化する。無駄を廃すると称して利己的な体質になると、それ自身が新たなリスクになっていく。

利他主義者の周りには、自然と人が集まる。頭数が集うだけでなく、尊敬の念という意識も集まってゆく。そのコミュニティでは、人に思わず手を差し伸べたくなるような善意溢れる人で賑わっているのではないか。

漢の格言に「桃李言わざれども下自ずから蹊（径）を成す」とある。人徳のあるものは進んで語らないが、自然と人が集まり道ができるという意味だ。

「『損して得取れ』が科学的に証明された」とネット版の記事にはあるが、本来この教えも「損して得取れ」だったのではないかと思う。心理距離が遠い他人、まだ見ぬ遠い将来の人々にも無意識に配慮できる人とは、つまり徳のある人なのではないか。それが多くの素直な善意を引き込み、運を挙げていくのだらう。

潜在意識レベルでの他者への配慮の範囲の大小が、己の運の大小を決めているというこの研究。最大のポイントが前提となっていることだ。

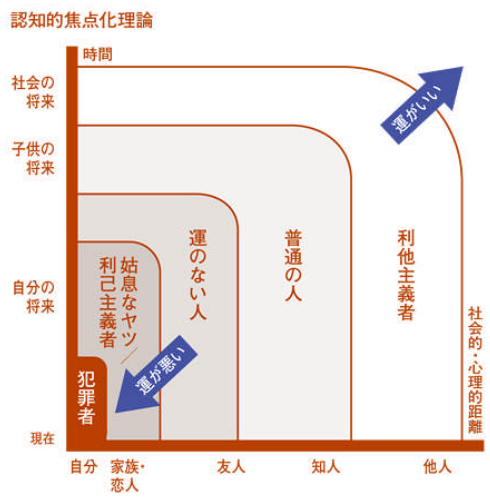
普段、歩くこと、呼吸をすることなど一々からの使い方気に配ることは無い。これらは無意識で行っている。そのレベルで他者への配慮範囲を広げていく必要がある。ここは意識して立ち入ることのできない領域だ。

自らの運を揚げようという利己的な意図だけで、配慮範囲を広げようと意識しても、根っこが変わっていないから、それはやがて見破られてしまう。

運を良くするアプローチは科学的に解明された。しかしそれを実践するのは、引き続き人間力が試される世界だ。

この研究をされている藤井教授のご専門は、都市・国土計画および公共政策のための心理学。学生時代、公共交通を専門に一部心理学も学んだ身にとって、その進歩の著しさに深い感慨を覚えている。

図1●「姑息なヤツ」は潜在意識の配慮範囲が狭い



受託業務が主力の当社。主な発注者である官公庁には、決算書を含む詳細な会社概要を提出し、登録を受理されていた。その一部が虚偽だったのだ¹。再建手法が定まらないなかこれを正直に告白すると、直ちに指名停止となり会社は終わりかねない。経営状態が思わしくないということを知られてはならず、業務遂行能力に疑念を抱かれてはいけぬ。粉飾の上塗りを避けながら、我々はこれを当面放置した。ブルーな気分が続くが、そうするしかなかった。

しかしどういう手法をとるにせよ、いずれは真実の決算書を官公庁相手に吐露しないといけない。その時、再生への道は残されているのか。こんな会社が許されるのだろうか。これまで築き上げてきた信用は受け継がれるのか、それとも霧散するのか。条件、時期、手続き...前例は少なく、確証はなかなか得られなかった。そうこうしているうちに、民事再生手続きによる再建手法が唯一の道として浮上。我々は、官公庁の再生企業に対する実際の扱いを把握しておきたいと思った。そうしないと我々のアンニュイな気分は一向に解消されなかったのだ。

このような背景のもと、営業担当取締役は国土交通省に探りを入れた。契約事務に精通したそれなりの立場にある人物に、当社の信用を毀損しない寸止めの暴露で、具体的な運用の話聞き出さねばならない。

どうやって聞き出したのだろうか。彼から詳細な報告が上がってきた。

私は、その後の姿が描けなかったとしても、自分が会社再建の当事者としての役目を全うするのに何のためらいもなかった。全力を尽くしても延命するだけで結局は会社が潰れる運命にあったとしても。だが、「国交省の委託業務において、民事再生企業は一定の条件下で業務継続が可能」との確証に近い感触を得たことは、私の背中を力強く押した。心の奥底にあったグルーミーな気分を一掃してくれたのである。

再建途上で、発注者にはそれを起因とするような業務遂行上の迷惑は掛けないと思う。社員の献身的な頑張りによって、当社の技術や真摯さに対する信用は揺らがなかった。そのなかで、発注者との関係において、水面下での打診から表面化してからの折衝²、そして実務の最前線を張ったのが営業担当取締役。口元の濃い髭は、他の経営陣にはない親しみ易さや情の深さの象徴であり、社内外の融和を図るべく様々な氷を融かしてきた。その一方で、あまりグルーミングされていないように見える髭のもとには、その気安さからか、鋭利な氷柱や溶けようもない氷塊が毛繕いに舞い込むことも多かった。髭のおじさんのメラノコリーは永遠に続く。

1:貸借対照表は大粉飾をしていたが、損益計算書と税務申告に直接的な粉飾はなく、結果として官公庁への提出書類における虚偽記載は最小限度にとどまっていた。

2:民事再生手続き後の業務継続に際し、「銀行等からの支援を受け...」の文言が必須との言葉を引き出す

先月の今頃は「今ならまだ間に合います。お早めに!」といったPOPなどが、街のあちこちに見ることができました。自動車ディーラーや家電量販店には多くの人が駆け込み需要をしているシーンがよくTVから流れていました。

さてあれから一カ月どのように変わったのでしょうか?高価格商材を扱う小売業態によっては、駆け込み需要の反動もあるでしょうが、日常生活を見る限りにおいては特に目立った変化はないようです。お店にいらっしゃるお客様の数や売上も伸びているくらいです。

では何故なのか?という点について少し考えてみました。

・3%くらい上がったくらいでは実態としては大きな差を感じない?

それこそ政府の策略なので、安易にそうだとは言いたくないです

・日本人もまだまだ裕福ってこと?

可処分所得が落ちているのは数字を見ても明らかなので、それは違うでしょう。

おそらくは全ては小売業と言われる企業たちの経営努力(?)の結果だと思えます。価格の据え置きはもちろん、店によっては税率アップ前よりも価格を下げているところもあります。そして、そのような企業や店舗をマスコミは「庶民の正義の味方」として褒めたたえるのです。

しかーし!本当にそれが正しい姿なのでしょうかね?小売店が販売している商材とは、「生産され」、「加工され」、「運ばれて」と全ての工程の税コストが上乘せされたモノを仕入れそれに付加価値をつけたものです。それが、価格据え置き?価格値下げ?ふざけるのも大概にして欲しいです。

まず小売り各社の方々には消費者に最終商品を届ける機能として、その裏にある生産者や加工者の利益も生んでいるという事、そこに従事しているスタッフの生活があることを忘れないでほしい。自分たちだけが勝てればいいという身勝手な考えはもうナンセンスです。消費者側もそのような風潮を煽るマスコミ連中の無責任な報道に騙されないでほしい。

うちの会社が経営する店舗はきちんと調達コストのアップと税率アップに対応した価格変更をしております。全ての人が適正な利益を受け取る、このポリシーは曲げたくないですね。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

~ 小山町赴任の巻 ~ 静岡県小山町経済建設部専門監 溝口 久

「これからが人生本番です。生き生きと楽しく過ごしてください。」と書かれたメッセージカードが添えられた大きな胡蝶蘭が、小山町での新たな住処「六合山荘」の玄関で小生を迎える。メッセージの主は静岡県庁OBで小生が県職になって7年目の時に同じ職場で、行政はサービス産業であることを気づかせてくれた西谷先輩だ。



この3月末で31年間勤めた(豊岡村1年、湯布院町2年含む)静岡県を少し早めに卒業することにした。

「もったいない、なぜ?」と多くの方々に言われた。「え!このまま県で足踏みしている時こそもったいない。県就職前の25年間、県職31年、残り30年あるとしたら今スタート切らなければ、そこには次のステージが待っている。」などともっともらしいことを言って受け応えていた。

県職残り1月余りの2月25日に母が他界し、その時に頂戴した大分県竹田市の首藤勝次市長からの弔電には***溝口ふき糸様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。あまたの苦難を克服し、今日の日本の礎を築かれた90年の尊き歩みに敬意を表しますとともに地域づくりの伝道師としてご活躍の久様とのご縁をいただいたことに対しまして感謝の念を捧げます。在りし日を偲び、心からご冥福をお祈りいたします***と書かれていた。

この「地域づくりの伝道師」の言葉に後押しされるように、この4月1日からは町長からオファーのあった小山町役場に経済建設部専門監として、観光、建築、都市計画、NPO、企業誘致まで富士山の裾野にある小山町のまちづくりに尽力することにした。

3月31日に静岡県庁の辞任式出て、31年間の県庁職員生活の感傷に浸る間もなく、新東名を東にひた走り小山町に向かった。沼津を過ぎ裾野に入るとほぼ全身雪化粧した富士山が視界いっぱいに入ってくる。御殿場インターを降りて走ること20分ほどで小山町の役場に到着する。

ひとり暮らしを立ち上げるため、宿舍を整え4月1日の辞令交付式に臨んだ。4月2日に正式に着任し、2日間で怒涛のような指示が町長から降り注がれた。

- ・健康福祉会館のリニューアル
- ・須走小学校の増築
- ・企業誘致のコーディネート
- ・観光振興計画の完成
- ・景観計画の策定支援
- ・富士山5合目のビジターセンター建築
- ・町内5地区のまちづくり推進の後押し



- ・小山産材「富士山金時材」のロゴマーク
- ・足柄駅舎を地域まちづくり拠点化への誘導・・・建築の実現
- ・シティプロモーション事業の引継
- ・エコツーリズム事業の立ち上げ支援
- ・サイクルスポーツのまちづくりの糸口となるサイクルステーションの設置
- ・道の駅「ふじ小山」の再整備
- ・足柄温泉に直販場設置すること
- ・NPO支援室の業務委託
- ・緊急雇用事業「人材育成」

最初の2日間で1か月間に思えるほどだった。

担当部局の話聞き、現地調査した上で確実な方向性を見出し、町長に相談し、担当部局にやり方を指示・アドバイス。道筋を付けることが小生の役割。

自分に足りないところは、ネットワークの力を借りて、ガンガン走りまくって行くことにしている。半年後には、成果をお見せできるものがきてくるので、静岡県小山町を注目して欲しい。

4月半ばを過ぎたというのに寒い日が多い、富士山の裾野にある標高が高い小山町の春はゆるり進む。このためか、町中の山里の桜はととも美しく、しかもその数がとても多い。名産の水かけ菜の花の黄色、富士山を背景に桜の花が映える。

小山町での住まいは役場から徒歩30秒の戸建ての住宅だ。勝海舟が名づけた「六合山荘」、小山町の町の経済的な礎をつくった富士紡績の工場長宅を町が買い上げ、そこに住わせてもらっている。部屋数7室 一人で住むにはちょっと寂しく感じる家である。

生活するに当たり家電製品他を揃える必要があり、小生の世話役の町長戦略課長の小野さんに相談しところ、庁内ランで職員に提供を呼び掛けてくださり、電子レンジ、こたつ、掃除機、オープン、机、いす、ナベ、フライパン、姿見の鏡他が揃い結局冷蔵庫のみ買えば済んだ。

中でも炊飯器は一升炊きで、小生一人では持て余す。そこで、昼飯は役場のそばという立地を活かし「六合山荘で昼食を」ということで熱々のご飯を皆で食べようではないか、その際にちょっとためになる話題を提供しようということで、2週目にして第1回カレーとサラダで昼食会を開いた。

浜松のゲストハウス「悠久庵」でやっていたそば会がここでも何とかできそうな気がしてきた。そこで4月19日(土)にそば会を開くことにした。15:00準備開始、17:00乾杯でお誘いしたところ、町内はもとより静岡市、島田市、県外では東京、平塚、秦野、小田原から、総勢25人も集まってくれた。

ここ「六合山荘」が交流と学びの場になるよう仕掛けて行くつもりだ。是非、どうぞ皆様も小山町そして「六合山荘」にお越しくださいませ。

